

上海での春節

神谷俊之

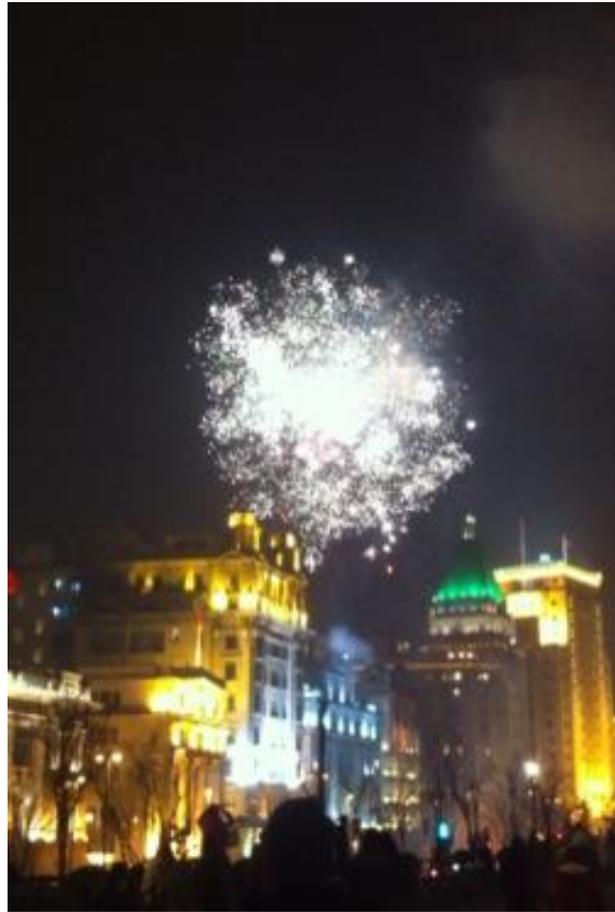
冬休みも終わり今週から授業が始まりました。久しぶりの授業はとても新鮮でまたクラスメイトとも久しぶりに会い、休みの期間は何をしていたかという話をみんなとしました。みんな色々な中国の都市に行っていて、例えばハルビン、西安、北京、香港、台湾、マカオ、海南などです。インドに行ったという友達もいました。

ちなみに私は2月1日から2月12日まで上海へ友達と行ってきました。この時期は春節(チュンジェ)といって日本で言う旧正月に当たります。旧正月になると多くの中国人は実家に帰り家族みんなで新年を祝うそうです。そして花火がいっぱい上がり、それがとてもきれいだと中国人の友達が教えてくれました。なのでどうせなら中国の大都市で花火が見たいと思いこの時期に上海に行きました。太原から上海へは飛行機で大体2時間ぐらいで着きました。上海に着いて最初に受けた印象はとても都会だということです。また日本料理のお店が多く、日本人には不自由のない暮らしが上海で出来る気がしました。実際に上海で多くの日本人に出会い、ユースホステルで同じ部屋になった日本人の方とお話した時に、上海は住みやすいと言っていました。それを聞いて上海に住んでみたいと思いました。

そして今年は2月10日が春節(旧正月)ということで9日の11時頃に花火を見に行きました。場所は外滩(ワイタン)という場所で11時ごろにはすでに多くの人がありました。外滩とは上海の観光エリアではとても有名な場所で、上海租界の時に西洋風の建物が多く建てられ今でもそれらが残っていて、夜はライトアップもされていてとてもきれいです。パリには行ったことがあるのですが、パリに街並みが似ているなと感じました。そして12時になった時にいっせいに色んな場所から花火が上がりました。そのあと周りにいた人たちと一緒に新年快乐(新年あけましておめでとうという意味)を言い合いました。この時期に上海に来て本当に良かったと思いました。



外滩の景色



外滩からの花火